



東陽病院 院長 伊藤 文憲

ピロリ（ピロリ菌）
腸を起こす原因として
最近注目されてい
るのはペリコバクター・
このびらんや胃潰瘍を起
ることがあります。

胃の内部は胃酸によりPH2前後の酸性の状態であり、さらに消化液のペプシンにより、常に胃の粘膜は攻撃されており、胃壁は防御として粘液を产生しています。この攻撃と防御の微妙なバランスの破綻により胃粘膜に炎症が起り、浅い傷である「びらん」から深い傷の「潰瘍」が形成されます。

「びらん」は胃粘膜の軽度の炎症、粘膜欠損であり、ストレスや大飲・大食により生じますが、状態の改善により急速に正常化し、痕跡も残りません。しかし、繰り返す場合には炎症が強くなり、深い傷となり「潰瘍」となります。潰瘍は治療により改善しますが、痕跡を残す点が「びらん」と異なります。びらんや胃潰瘍は腹痛や食欲不振を起こしますが、一番の問題点は出血です。胃壁の血管に近い部位では浅い「びらん」でも大量の出血がみられることがあります。

※東陽病院の休日当番日

10月12日(日)・19日(日) 午前8時30分～午後6時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎(84)13335

メツセレシ

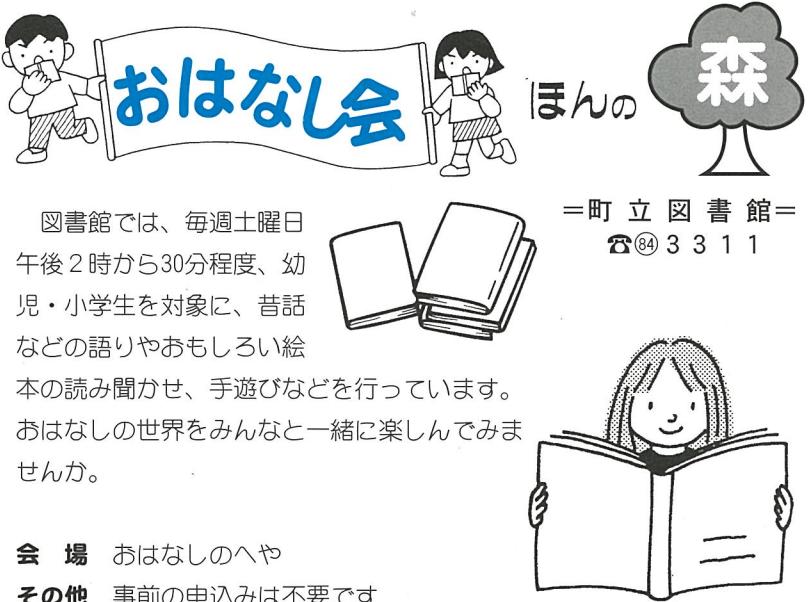
シリーズ
118

健康への

胃の病気 (I)

光町の皆さんこんにちは。今回は胃の病気について述べます。胃は「胃袋」といわれるようにならうとしています。胃の働きは、食物を消化液と十分に接觸・攪拌して、その消化を助けることです。入り口は噴門部、出口は幽門部と呼ばれ、それぞれ括約筋によつて食道への逆流や早期に十二指腸への食物の移動が起らないようになっています。

胃の検査法について述べます。従来は白いバリウムを飲みながら、医師や放射線技師がX線TVのモニターダウンに体位変換や圧迫などにより撮影していました。このX線による検査で異常のあつた場合には確認として胃の内視鏡検査が行われます。内視鏡は、専門の医師が少なく、また医師の熟練度により苦痛が異なるなどの点で、X線検査に比べて集団検診などでは不向きな点がありますが、精密検査としての有用性は高く、病院では最初から内視鏡で検査が行われています。直視下に病变を観察することが可能であり、必要に応じて組織検査を追加し、正確な診断が可能となっています。



=町立図書館=

☎(84)3311

開館記念特別企画 映画会

「ソフィーの世界」

日時 11月9日(日)
午前10時、午後2時の2回上映
定員 各回120名
入場 整理券(無料)
を10月25日(土)から図書館カウンターで配布します。



図書館では、毎週土曜日午後2時から30分程度、児童・小学生を対象に、昔話などの語りやおもしろい絵本の読み聞かせ、手遊びなどをしています。おはなしの世界をみんなと一緒に楽しんでみませんか。

会場 おはなしのへや

その他 事前の申込みは不要です

休館日

10月6日(月)、7日(火)、12日(日)、13日(月)、20日(月)、27日(月)、11月4日(火)、5日(水)